

小雨が降る岡崎大橋の上で、車に轢かれ動けなくなってブルブル震えながらその場にうずくまっていた子猫がいました。

誰もどうしてやることもできず、「ああ、かわいそうに…」とつぶやくのが精一杯でそのまま素通りしていくばかりでした。もう何百台という車がその子猫の横を無情に通りすぎたころ、一人の若者が排気ガスにまみれておびえている、震える子猫を保護しました。岡崎30万人の市民の中でたった一人、勇気の決断をしたその若者がテクア技研のS君でした。S君も一度は素通りした一人だったのですが、どうしても見るに耐えかね、Iさんを誘い、一緒に救出に向かったのです。

勇気ある決断をした時は必ず助けてくれる良い人に出会う、という法則がはたらいっているかどうか分かりませんが、子猫を連れて行った岡崎の『ライオン動物病院』の先生が大変良い人で、とても優しく対応して下さり、手術代と治療費と一ヶ月以上の入院費をな、な、なんと2万5千円で面倒見て下さったのです。そして今はとても元気になってS君の自宅で親父さんの湯タンポ代わりに、毎晩抱きかかえられて眠っている毎日だそうです。

経営者が率先して自社のトイレ掃除をしたり、道端に落ちているゴミをササッと拾ったり、そういうことを続けていると必ず良いことがおきるよと言われ、この一年間継続してきましたが、今回の件は「本当にそんなかんじになってきたなぁ～」としみじみ感じさせられた一件でした。

どんなに仕事ができようが、どんなに売上が上がろうが、『そんなことは二の次』といえるようなテクア技研の『無形の核』が『伝統』が『社風』が『ブランド』が10年後、20年後には出来上がっていくのではなからうか、という予感がしています。

皆さんの『心あたたかいもの』を持ち寄ってもらって楽しく一歩一歩共に歩んで行きたいと思います。



今月の私の師は岡崎1 / 30万の市民代表、S君です。

【羽原 篤史】

